

「滑川宿まちなみ保存と活用の会」の設立

平成 22 年 5 月 22 日に滑川市の瀬羽町から橋場町周辺の歴史的建物の所有者が中心となって「滑川宿まちなみ保存と活用の会」を設立しました。

この「滑川宿」という名前には、滑川の町が宿場町として発展してきた歴史と、瀬羽・橋場だけでなく旧北陸街道沿いの歴史的な建物を活用し保存して行きたいという願いが込められています。

＜設立趣旨＞

滑川市は、日本アルプスの山々を背にして富山湾に臨み、四季折々の美しい豊かな自然と風土に恵まれた地です。江戸時代以降の旧滑川町域は、北国街道沿いの宿場町として、また加賀藩の年貢米など当地域の物資集散の港町として大いに賑わいました。当時の様子は、旧滑川町域に数多く残されている社寺建築や町屋や土蔵、そしてそれらが作り出すまちなみによって窺い知ることができます。旧滑川町は、周辺 6 村との合併を経て 1954(昭和 29)年に滑川市となりました。1960 年代からは郊外に宅地が開発されるようになり、その影響でかつて繁栄した旧滑川町域では人口の流出が続き、現在では住民の高齢化、建物の老朽化、高い空き屋率など、町の空洞化が極めて深刻な状況になっています。長い間にこの地で培われた歴史的・文化的アイデンティティを将来に伝えていくための方策を構築することは、喫緊の重要課題であります。

この度、上述の状況に鑑みて、歴史的都

市が持つ伝統的都市景観を保存し、この地に伝えられた歴史・文化を地域の発展へとつなげていくために、「滑川宿まちなみ保存と活用の会」を設立する運びとなりました。伝統的まちなみを形成する個々の歴史的建築を維持管理し、より良い住環境を形成するためには、歴史的建築を取り巻く様々な情報の共有化、会員相互の意識向上、市民の文化財に親しむ機会の拡大、建築物の修復等に携わる技術者や文化財ガイドなどの人材育成等々が不可欠です。積極的かつ恒常的に活動していくためには、歴史的建築所有者のみならず、行政関連部署、経済界、建築関連諸団体、そして何よりも多くの市民の方々との親密な連携が欠かせません。

「滑川宿まちなみ保存と活用の会」は、歴史的建築物の所有者をはじめとする地域住民が、歴史的環境に対する様々な問題の解決に取り組むことによって地域の発展へ寄与しようとするものであります。地域の未来を築くための有益な情報交換の場として、また、地域住民の方々や関連諸団体各位が親睦を深めながら互いに啓発し合い、自らが自らの地域を考える場であります。

平成 22 年 5 月 22 日
滑川宿まちなみ保存と活用の会

会長 城戸 拓一

この「設立趣意は、山形大学 地域教育文化学部 生活総合学科 永井康雄教授に原案原作をいただきました。ここに深く感謝いたします。」

<設立総会>

開催日時：平成22年5月22日14時30分
場所：旧宮崎酒造麹蔵（滑川市瀬羽町1860）
参加：運営会員6名、事務局1名

まず、設立準備委員会委員長城戸拓一氏より、設立趣旨を読み上げ、出席者に趣旨の賛同を得て総会議長、役員を選出を行い、会則の承認後、会長から就任の挨拶行われて閉会となりました。

<役員紹介>

会長：城戸 拓一

（国登録有形文化財 城戸家住宅主屋）

副会長：金山 彰夫

（国登録有形文化財 旧宮崎酒造主屋、酒蔵、麹蔵、衣裳蔵）

会計：小沢 政商

（国登録有形文化財 小沢家住宅店蔵）

監査役：小森 忠

（富山県建築士会 副会長）、
金山 彰夫（兼）

幹事：小森 忠（兼）

事務局：廣橋 和親（事務局 城戸家内）

<記念講演>

会の設立にあたり、山形大学の永井康雄教授より「滑川の歴史的建物とまちなみ」という演題で設立記念講演が行われ関係者、一般市民約60名が熱心に聞き入りました。



国登録文化財について

登録されても不自由になりません。

登録文化財は・・・

●活用しながら保存していく制度です。

●基準は？

- ・築50年を経過していること
- ・歴史的景観に寄与していること
- ・造形の規範となっていること
- ・再現することが容易でないこと

●優遇措置は？

- ・修理のための設計管理費の1/2補助
- ・敷地の地価税を1/2に減税
- ・家屋の固定資産税を1/2に減税
- ・相続財産評価額を3/10控除

●登録しても不自由になりません。

- ・通常望見できる範囲の1/4以下の改築は届出不要
- ・外観を変えず、内部を変更する場合は届出不要

この会場（旧宮崎酒造）は今年の4月28日に登録となったばかりで、富山県内では初めて外観復原後に登録された建物です。

滑川の本陣と変遷と小泉屋

旧宮崎酒造主屋の脇にあったとみられる本陣について古図面を元本陣と居宅の関係について説明があり、旧宮崎酒造の歴史的意味と価値を再認識することができました。

滑川宿の本陣は・・・

●滑川では綿屋（桐沢家）が寛永4(1627)年から御旅屋・本陣を務めていました。

●弘化元(1844)年からは養照寺と小泉屋が本陣を務めることとなりました。

●慶応2(1866)年の養照寺焼けで本陣を持つ小泉屋住宅は全焼。

●その後すぐに小泉屋は現在の建物を再建したと考えられますが、本陣は再建されたかどうか現在のところ不明です。

滑川の歴史的建物と伝統的景観

保存状態の良い歴史的建物が広範囲に数多く残っていることを図示され、滑川宿の町並みの景観的特徴を岩城家文書に残る古図面を元に解説していただき、コワキ（袖壁）やコヤネ（小屋根）、ガンギ（雁木・下がり雁木）、格子、下見板など伝統的町屋の特徴が滑川にも多くみられることも分りました。

また、滑川宿は水路の町であり、水路のロータリーが存在することを街路と水路の復原図や現在の写真などで明かし、この水路も滑川が物資の集散地であったことが分かる滑川の歴史的財産であり魅力であると説明がありました。

山形のまちづくりとこれからの滑川

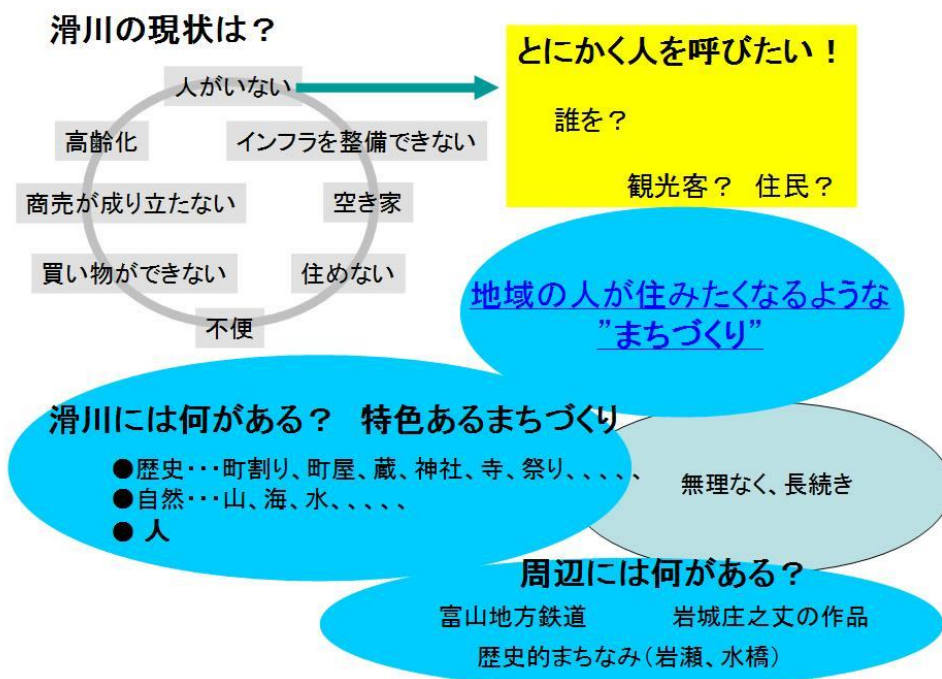
永井先生が活躍されている山形市内を流れる5つの堰を活用したまちづくりの活動や、山形県金山町の水路の環境整備の様子を写真で紹介されて、最後に滑川の現状と滑川がもつ様々な魅力をどのようにまちづくりに活かしていくかの幾つかのヒントを提示いただいたところで約1時間の講演が終了しました。



※永井康雄教授：平成22年1月まで東北大学院工学研究科に在籍し、滑川を拠点に三代にわたり堂宮大工として活躍した岩城家の文書の研究。そして、同年2月に山形大学地域教育学部の教授に就任、現在に至る。

※岩城家文書：江戸末期から大正時代にかけて、現在の滑川市を拠点に3代にわたり堂宮大工として活躍した岩城家に伝来した5千点を超える史料が富山県滑川市立博物館に所蔵されている。岩城家の3代目にあたる岩城庄之丈は、東京帝国大学教授伊藤忠太が「天才建築家」と評した堂宮大工であり、明治12年（1879）の京都東本願寺御影堂及び

同19年（1886）の阿弥陀堂再建では、それぞれ伊藤平左衛門、木子棟斎の下で建築肝煎役を、同30年（1897）の英照皇太后崩御に際しては大喪使場所付などを務め、同33年（1900）のパリ万国博覧会では伊藤左平衛門の下で日本建築の製図を担



当。築地本願寺本堂再建の設計製図、靖国神社神門の設計製図、知恩院阿弥陀堂の設計製図など中央で活躍する一方で、養照寺（滑川市）、雪嶋神社神輿（滑川市・市指定文化財）、廣野家住宅（滑川市・国登録文化財）、安成寺（魚津市）、射水神社（高岡市）、日枝神社（富山市）等の富山県下に所在する多数の神社仏閣や住宅建築にも携わった。これらの内、現存する建築作品は当地域の景観形成にも大きく寄与している。

（「日本の古典建築の設計原理の分析と現存遺構との比較に関する研究」より抜粋。代表研究者 永井康雄）

<懇親会>

講演会の後、懇親会を兼ね「春の風物詩を愛でる会」と称し、まつり（祭り）が催されました。

滑川旧町部には軒先に紙で作った「花」を飾り、幕を掛け、提灯を下げる華やかな祭りの風習があります。

今年は近隣の空き家も含めて新たに4軒、花を飾りました。この花は通りを清めるとともに、下をくぐる人も清めるために飾ると言われています。



さらに、旧宮崎酒造に残る明治初期の赤御膳を使い、倉本料理教室の倉本瑩子先生にお願いして昔ながらの祭り御膳を再現しました。



そして、70名余の方々と「ごっつお」（ごちそう）で「まつり」（祭り）の大宴会となり、出席者からは「懐かしかったわあ」、「楽しかったちゃあ」等、喜びの声を聞くことができました。

まちなみ保存は建物だけでなく、そこに生活する人々の習慣や習わし、風俗も含めて伝承していくことが大切であると考え、今後も伝統的行事や、風物詩などを開催していく予定です。

<会長からのご挨拶>

本会設立にあたり、関係各位より多大なるご指導ご支援を賜り、誠にありがとうございました。ここにあらためて深くお礼申し上げます。

私自身は非常に気楽な気持ちで、本会の一員のつもりで引き受けましたが、宝塚市在住で大阪勤務のサラリーマンとしては、最近になって「えらいこっちゃ！」という有り様です。

会員はみんな、本業たる仕事、家族との生活を抱えながら何とか余裕時間を見つけて活動しています。

「保存と活用」は言うは易く行なうは難しですが、試行錯誤を重ねながらも「ぼちぼち、ゆっくり」やってまいりますので、皆様方におかれましても、今後ともご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

城戸 拓一

登録文化財を活用した活動の報告と予定

<その1>

7月30・31日には旧宮崎酒造を会場として「ベトナム・ランタンまつり in なめりかわ」が開催され、1,000人以上の来場者でにぎわいました。

当会からも実行委員会に参画し、地元商店街の有志、ベトナム富山県人会の方々と一緒に地域の賑わい拠点創出事業の協力を行いました。

このまつりは、滑川市のホタルイカを龍宮の使者とみたてた「ふるさと龍宮まつり」とベトナムに龍宮城があったのではという説のキーワード「龍宮」と、ベトナム中部の都市ホイアンの間口が狭く奥行きが長いという造りの建物、土蔵や袖壁のようなイメージや上げ下げ蔀戸を連想させる意匠などの共通点から開催に至ったそうです。



会場にはベトナムから運ばれてきた約100個のランタンが飾られて異国情緒を醸し出し、訪れた方々もその幻想的な雰囲気を楽しんでおられる様子でした。

また、外の屋台ではフォーや揚げ春巻きなどのベトナム料理のほか、地元寿司店の創作寿司や、同じく菓子店のコラボスイーツの販売が行われ、ゲームコーナー、民族楽器のコンサート、県内在住のベトナム人によるバンブーダンス、市内の人形劇団の

人形劇なども開催されるなど、スタッフ、出演者、来場者、気温も熱くなったまつりでした。

しかし、このまつりはベトナム一色だったわけではなく、滑川宿の魅力を再認識していただくために、旧宮崎酒造主屋ミセ部分に会員所有の建物の紹介と賑わっていた頃の地図をパネルで展示しました。全てのパネルを読んで下さる来場者も多く、これからはまちの魅力を知っていただくきっかけを作っていきたいと感じる二日間でもありました。

<その2>

10月6日には旧宮崎酒造において、市内の着物愛好家グループ「風粋会」主催による「秋の夜長に歌の調べを」と題し、和装でカンツォーネを楽しむ会が開催されました。

このコンサートは風粋会会員の催し物でしたが、会員の友人や、近所の方々など約40名が約1時間の素晴らしいコンサートを楽しみました。

また、当会では会場設営や撤収のお手伝いを行い、コンサートが始まる前に会場の旧宮崎酒造や、まちなみの案内、賛助会員募集の告知をさせていただきました。



この10月6日という日は、登録有形文化財（建造物）の登録が5千件を突破し、

美術工芸品や民俗文化財等の分野にも文化財登録制度が導入されたことを記念して、文化庁が平成17年に定めたものです。今回のイベントは「登録の日」にピッタリなイベントだったのではないのでしょうか。

＜その他の活動＞

- 6月12日役員会が開催されました。
- 7月17日滑川市の姉妹都市北海道豊頃町の視察団が来町されて、町並みを案内しました。
- 8月13日旧宮崎酒造主屋において「滑川文化座談会」され、会場の提供を行いました。
- 8月19日市内の「柊の会」主催による「ふるさと探訪同好会」の見学会があり、旧宮崎酒造と町並みの案内を行いました。
- 9月9日旧宮崎酒造主屋にて滑川市立博物館主催による文化財ガイドボランティア第一回講座開催され、当会会員が講師を担当しました。
- 9月11日午前：国土交通省住宅生産研究室と独立行政法人建築研究所の視察があり、案内を行いました。
同日夜：富山県高岡市吉久の「まちづくり夜なべ談義」にて当会の活動を発表しました。
- 9月18日役員会が開催されました。
- 10月30・31日広島県竹原市を視察しました。
- 11月3日旧宮崎酒造で市内のカントリーブルー主催「手作りマーケット」が開催され、約300人の来場者で賑わいました。
- 11月3日城戸家を活用し、(株)まちづくり工房主催による地産のこだわり朝市が開催され、約100人の来場がありました。

＜今後の活動予定＞

- 11月20日富山県教育委員会主催「いきいき文化財博士現地研修会」が滑川宿場

回廊にて開催が予定され、ガイドなどの協力を行います。

- 12月11日「語り部の会」(案)開催予定。
- 2月中旬 (株)まちづくり工房主催による「瀬羽町フラメンコ一夜」開催予定。
- 5月21日当会主催「第2回春の風物詩を愛でる会」(春祭り)開催予定。

滑川宿まちなみ保存と活用の会 運営会員と賛助会員

＜運営会員＞ 敬称略アイウエオ順

金山 彰夫／国登録有形文化財 旧宮崎酒造主屋、麴蔵、酒蔵、衣裳蔵
 城戸 拓一／国登録有形文化財 城戸家主屋
 小沢 政商／国登録有形文化財 小沢家店蔵
 小森 忠 /富山県建築士会副会長
 菅田 安男／菅田家
 廣野 行雄／国登録有形文化財 廣野家住宅
 国登録有形文化財 廣野医院

＜賛助会員＞ 敬称略アイウエオ順

川崎令子、梅郁夫、土井修、永井康雄、中川幸一、中野重光、中村信子、坂東馨子、堀井純子、松井 潤一、丸谷芳正、丸谷文恵、若宮イツ子

編集後記

当会が設立してはや6カ月が経ちました。文化財保護法の目的は、単に文化財を保存するだけでなく、新しい価値を付加し活用していくことで次代に文化を受け継いでいくことと理解しております。

これからも伝統的な行事や勉強会を開催してまちの魅力を再認識するとともに、新しい価値を創造するイベント等で活用されることを期待しています。

(事務局 廣橋)

ISO 9001 : 2000 認証取得
ISO 14001 : 2004 認証取得

みんなで進めようリサイクル

(株) 金山 産業

家屋解体工事 フリーダイヤル 0120-88-7530

事務所 〒936-0004 富山県滑川市並木74-1 TEL (076)475-7530 FAX (076)475-9184
http://www.kanayama-s.co.jp E-mail:info@kanayama-s.co.jp